て研究や指導実践を展開している。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「よい歯の学校表彰」や「健康推進学校表彰」等のほかに、県学校保健会が行う「学校保健優良学校表彰」、日本体育・学校健康センターが行う「学校安全優良学校表彰」を行うとともに、これらの顕彰事業の推進によって、自校の健康教育にかかわる課題の的確な把握や学校保健・学校安全の推進母体である学校保健委員会の活性化が図られるよう努めた。

3　学校給食の充実

本年度の学校給食の実施状況を児童生徒数で見ると、完全給食は小学校で98.6%、中学校で84.9%、補食給食は小学校で0.2%、ミルク給食は小学校で1.3%、中学校で15.1%の実施率となっている。

米飯給食の週当たりの実施回数は小学校で2.68回、中学校で2.58回、小・中学校計で2.65回の実施となっている。

学校給食費は、一食当たり小学校（中学校）で233円11銭、中学校で271円15銭となっている。

次に、学校給食の充実を図るため、給食関係職員を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新採用・専門研修会を開催した。また、校長、教頭等に対し、給食の管理運営等指導者として、給食を円滑に実施するための講習会を実施した。

また、ゆとりある楽しい学校給食とするため、学校食堂・ランチルームや食器具等、食事環境の整備に努めるよう指導した。

平成8年は、学校給食において全国で腸管出血性大腸菌O－157やサルモネラ菌等による集団食中毒が大量に発生し大きな社会問題となった。本県教育委員会は、教育庁内に「腸管出血性大腸菌対策連絡会議」を設置し、関係機関相互連携の下に、学校等における感染防止に務めた。緊急点検、学校給食施設・設備の改善、保存食保存のための冷凍庫の設置、学校給食用食材の細菌検査等、「学校環境衛生の基準」に基づいた衛生管理の徹底を図った。

4　研究大会の開催

第20回福島県学校体育、保健・安全、給食研究大会を県内関係者594名の参加を得て、白河市「サンルート白河」を主会場に3分科会で1日の日程で開催した。

「自ら進んで健康で安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成を目指して」を大会主題に掲げ、生涯にわたって健康で明るく豊かな生活のできる幼児・児童・生徒を育成するため、学校体育、保健・安全、給食の諸問題について研究協議するとともに、具体的な指針を見いだし、多くの成果を収めた。

5　社　会　体　育

(1)　生涯スポーツ

県民が「だれもが、いつでも、どこでも」気軽にスポーツを楽しめる事業を展開し、一層の振興を図った。

特に、①推進体制の整備、②関係団体の育成、③指導者の養成・確保と充実、④振興事業の充実、⑤施設の整備と充実の5本の柱を設定し、生涯スポーツの充実を図るため、本年度5月に財団法人福島県スポーツ振興基金を設置し、県体育協会、県レク協会、県スポ少年団が事業実施主体者となり、事業の展開に努めた。

また、市町村へのスポーツ主事派遣事業を推進し、ふくしま国体の開催で高まった県民のスポーツへの関心をスポーツの実践につなげ、施設を有効活用し、年齢、性別、能力等に応じた多様なスポーツの定着を図った。

更に、県民の多様なスポーツ・レクリエーション活動の推進を図るため、ふくしまスポーツフェスタ'97を開催し、スポーツ活動の促進に努めるとともに、全国スポレク祭に、役員・選手を派遣するなどスポーツの普及・振興に努めた。

(2)　競技スポーツ

「ふくしま国体」を契機とした競技力の維持・向上を図るため、(財)福島県体育協会をはじめ、関係市町村・競技団体等への助成を通して、①組織の整備・充実、②指導者の養成・確保、③選手の育成・強化、④大会の開催等に関する事業の推進に努めた。

また、国体開催地域における一層のスポーツの振興と施設の有効活用を図るため、「シンボルスポーツ地域育成事業」「メモリアルスポーツフェスティバル補助事業」を新たに実施するとともに、県総合体育大会の開催や東北総合体育大会・国民体育大会への役員・選手の派遣、国際大会出場者に対する助成、共催・後援を通してスポーツの振興に努めた。

6　体育施設の整備

市町村の体育施設については、国庫補助事業により学校体育施設として、小・中学校プール11ヵ所、フェンス1ヵ所、運動場照明施設1ヵ所の整備を図った。

第2節　保健体育関係表彰

1　体　育　関　係

(1)　文部大臣表彰

①　体育功労者

氏　　名	役　　職　　名
廣木　謙 （会津若松市）	福島県サッカー協会副会長 会津サッカー協会会長
遠藤昌三 （原町市）	福島県陸上競技協会副会長 相双陸上競技協会会長

②　社会体育優良団体

団　体　名	代　表　者
浪江町体育協会	馬場　有（浪江町）
会津若松市ソフトボール協会	渡邊　光治（会津若松市）